

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖 縄 県
-------	-------

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	読谷村立 渡 慶 次 小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	2	1	18	27
児童数	83	90	88	86	86	76	1	516	

・研究の概要

1. 研究主題

自ら学び 自ら考える子の育成 - 基礎学力を高める 個に応じた指導の工夫改善 -
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p><b>【全学年・全教科】指導方法・指導形態・指導体制の工夫改善 算数習熟度別指導</b>                  全担任・専科・加配教員の資質・指導力向上と児童の算数の基礎基本を定着のため  <b>【第5・6学年】 一部教科担任制 国語科・算数科少人数・TT等指導</b>                  専門的な学習内容に適応し中学校への円滑な移行を図り、基礎学力を高めるため  <b>【第4学年】 算数科 少人数・TT等指導</b>                  前学年より高度化する学習内容に適応し、児童個々の基礎基本の定着を図るため</p>
---

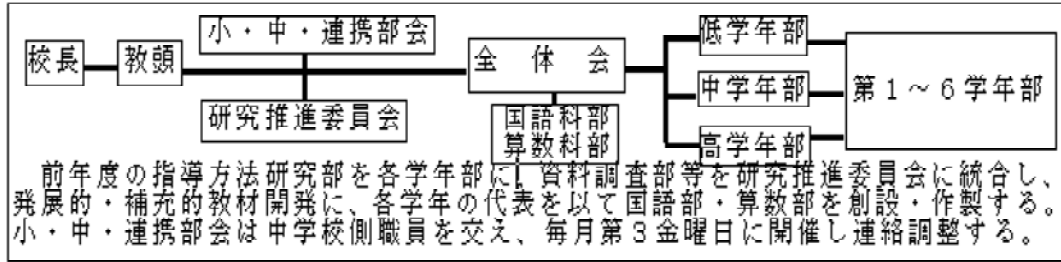
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	学力向上フロンティア事業推進実践研究の振り出し年度 1. 全学年の指導方法・指導形態の工夫改善(教科担任制1学年・少人数国語) 2. 発展的・補充的学習のための教材の開発 3. 児童の学力の評価を生かした指導の改善 4. 各学年の研究実践を検証する全学年研究検証授業の実施 5. 読谷中学校との連携による指導方法等の工夫改善
--------	---

平成15年度	前年度の実践研究の効果を検証し、更に工夫改善する年度 1. 全学年の指導方法・指導形態の工夫改善の継続・拡大・深化 (教科担任制2学年・少人数国語・算数) 2. 発展的・補充的学習のための教材の開発の継続 3. 児童の学力の評価を生かした指導の改善の継続 4. 各学年の研究実践を検証する全学年研究授業実施と成果の共有化継続発展 5. 読谷中学校との連携による指導方法等の工夫改善の継続・発展・情報共有
--------	---

平成16年度	前年度までの研究実践を日常化し、実践研究をまとめ上げ成果を確認する年度 1. 全学年の指導方法・指導形態の工夫改善の継続・深化・まとめ (教科担任制2学年以上・少人数算数中高学年) 2. 発展的・補充的学習のための教材の開発の継続・まとめ・活用 3. 児童の学力の評価を生かした指導の改善の継続・深化・まとめ 4. 各学年の研究実践を検証する研究授業の実施の継続・深化・まとめ 5. 読谷中学校との連携による指導方法等の工夫改善の継続・発展・日常化
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 第5・6学年児童の標準学力検査偏差値が2ポイント前後上昇した。
- ・ 8割の児童が国語と算数が少人数指導になって成績が上昇したと意識している。
- ・ 教科担任を経験した卒業生は、中学進学後円滑に中学校教科担任制へ適応した。
- ・ 同卒業生は、国語教科担任と加配との少人数指導で、前年度よりも標準学力検査偏差値が5.2ポイント上昇した。
- ・ 教師が指導方法改善等への対応に慣れ、より工夫改善した指導に取り組めた。
- ・ 教科担任制導入学年で、指導や評価・進度の学級間格差が減少した。
- ・ 各学年の創意工夫を生かした研究実践と検証授業研究会を重ねるごとに、本校教職員の意識改革・資質と指導力向上が図れている。

2. 今後の課題

- ・ 本校児童の更なる基礎的・基本的内容の定着と、基礎学力の全体的底上げ。
- ・ 学習が進んでいる児童に対する「発展的な学習」の確立と、更に伸ばす指導の工夫改善・教材開発。
- ・ 学習が遅れている児童に対する、更に「個に応じた指導」の工夫改善充実。
- ・ 更に進んだ指導方法や形態・体制の工夫改善の試行・拡大・深化
- ・ 本校児童の学習に対する意識の改革、目的意識や学習意欲の高揚
- ・ 低・中学年の、学力の伸び悩みの解消への強化策の策定。
- ・ 本校教職員の、更なる資質・指導力の向上と意識改革、職責と使命感の高揚
- ・ 小中連携に小学校側の専門性を用いた補習指導、道徳特活総合等への協力支援

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 年度当初と年度末、二度に渡る標準学力検査実施での、児童の変容と基礎的基本的内容の定着度診断・指導方法や形態・体制の改善等の効果検証。
- ・ 年度当初からの学級担任による児童個々の学習状況・変容の把握と情報の蓄積
- ・ マスターシートの評価分析と達成度テスト分析による重点指導部分の把握強化
- ・ 教科担任制・少人数指導・習熟度別学習集団編制における指導などの実践効果検証や、児童・保護者の意識を把握するため、必要に応じてアンケートや小中連携を活用して卒業生への追跡調査等も実施して、分析・把握、改善に努めている。

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 中頭教育事務所において前年度の「教科担任制」の実績と実践報告
- ・ 読谷村教育委員会学力向上対策実践小中相互授業研究会での研究実践報告発表
- ・ 夏季休業中の国頭・大宜見両村教委の学対先進校視察訪問の説明での発信普及
- ・ 平成 15 年 11 月 14 日に開催した読谷中学校合同「学力向上フロンティア事業」2 年次実践報告会で研究検証授業公開と実践報告・資料（パンフレット等）配布
- ・ 本校HPに研究実践（パンフレット等内容）掲示
- ・ 読谷村交流事業、北海道池田町立池田小学校長本校訪問に際し研究実践を説明
- ・ 平成 16 年 2 月 7 日読谷村学力向上対策実践報告会にて、研究実践資料誌上発表
- ・ 平成 16 年 2 月 14 日中頭地区学力向上対策実践発表大会に於いて学力向上フロンティアスクール読谷中学校との合同で、小・中・連携の実践を発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15 年度からの新規校	14 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下 13 ~ 18 学級 25 学級以上	7 ~ 12 学級 19 ~ 24 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	